

第 59 回実技セミナー in 東京

基礎コース&スキルアップ



開催報告

開催日時：平成 30 年 1 月 14 日（日）13 時～17 時までの実質 4 時間（受付 12 時 30 分～）

開催場所：ラックヘルスケア株式会社 東京オフィス

主催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会

共催：ラックヘルスケア株式会社

後援：株式会社クリニコ 日清オイリオグループ株式会社 渡辺商事株式会社 株式会社大塚製薬工場

<敬称略>

開催目的

- 包括的な食支援に関する知識や技術を得ることができる。
- ベッド上、車いすでの基本姿勢と五感を活用する食事介助方法が理解できる。
- 食べる力を引き出す、ベッドサイドスクリーニング評価の方法を理解することができる。
- グループ毎のレディネスに沿った演習を通して、自施設においての実施に繋げることができる。
- 包括的な食支援に関する知識や技術を得ることができる。

～KTSM 実技認定者（講師・アドバイザー）一覧～

<敬称略>

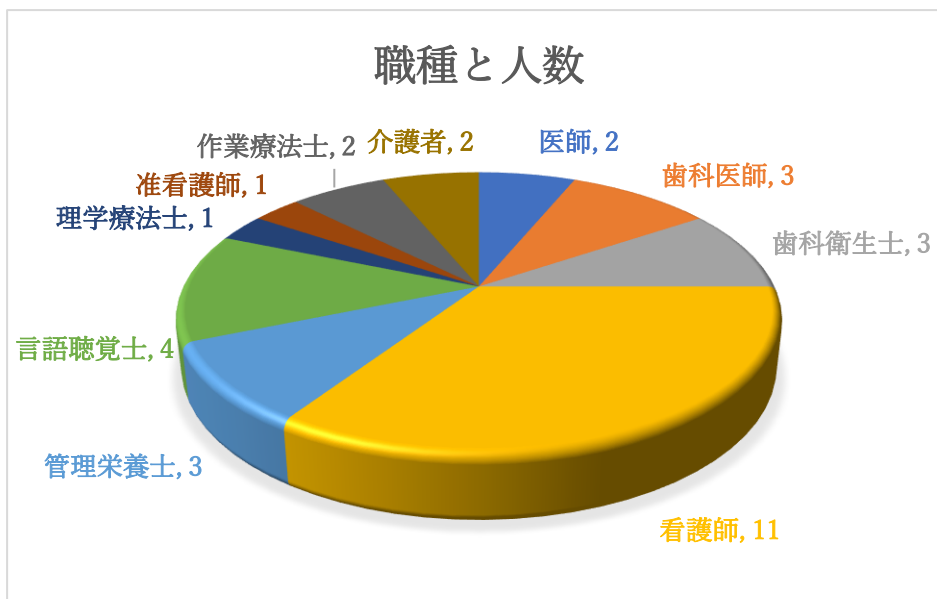
氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美	NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 理事長 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
金 志純	社会福祉法人 鶴風会 東京小児療育病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
山下ゆかり	医療法人社団 永研会 ちとせデンタルクリニック	歯科衛生士 KTSM 実技認定者
剣持 君代	公益社団法人 群馬県医師会 群馬リハビリテーション病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者

～セミナーサポート～

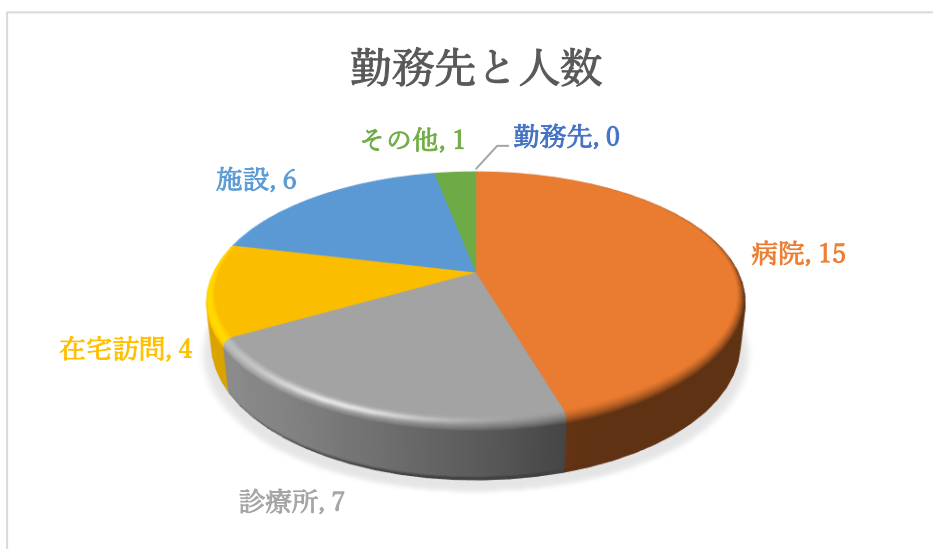
氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
古山 梨佐	医療法人財団 明理会 イムス富士見総合病院	看護師
小松 嘉彦	仙台市介護老人保健施設 にしき園	理学療法士

アンケート集計結果（参加者 33 名 回収率 57%）

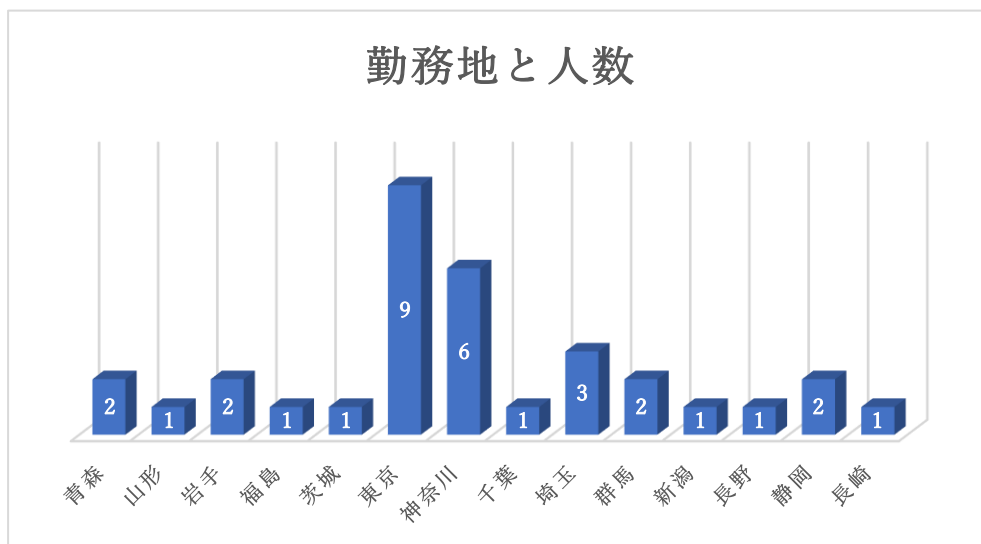
Q.1 職種



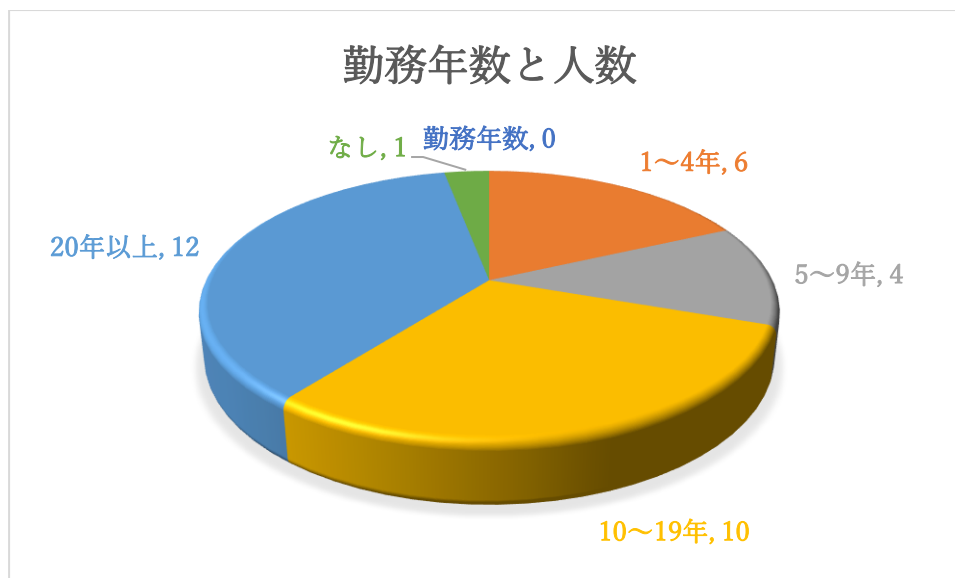
Q.2 勤務先



Q.3 勤務地



Q.4 勤務年数



Q.5 参加前と参加後で考え方がどのように変化しましたか？

- ◆専門職だけでなく、一般の方にも知っていただくことも大切だ。
- ◆食事支援に対する意識・考え方が変わった。今まで自分が実施していた食事介助が間違いだらけであることが理解できた。
- ◆ポジショニングによる、患者の緊張の緩和がおこり、嚥下に集中出来る環境作りの大切さ。患者さんの目線に立つことの大切さ。
- ◆食べることの大切さ、在宅で食べることを支援するためには、家族も含め他職種との連携が不可欠であること。また自分の知識量、技術力の無さを改めて痛感した。
- ◆ST として直接的嚥下訓練を実施していましたが、今回参加して、自分の臨床の足りない点がよく分かり、今までの患者様の身になって訓練を行っていない、甘かったと思いました。
- ◆前回参加したセミナーの復習のつもりで参加したが、自分の知識不足やスキル不足があきらかとなり、自分が初歩も理解できていないことに気付いた。自分の知識不足が、患者さんへの苦痛や不快感につながり嚥下障害を引き起こしているという事実を改めて痛感し、患者さんに対して申し訳ない気持ちでいっぱいになった。もう、患者さんにつらい思いはさせたくないと思った。
- ◆普段から剣持さんが私たちに言ってくれていたことだったと再認識しました。またフードテストは ST が行うものと思い込んでいました。今後機会があったら積極的に実施できたらと思います。
- ◆勉強会に参加し、日々の現場で自分自身が患者様の目線で見れていないと感じました。食事を食べてもらうことに集中してしまい、何が問題で、どうやったら食べていってもらえるかもっと深く考えていかなければならないと思いました。
- ◆歯科医師として、30年以上仕事をしてきていますが、食べることの支援を歯科医師としての残りの人生で関わって行きたいと思い、この3年いろいろところで勉強してきました。まず、嚥下の5期も知らないところからのスタートでした。私の世代は摂食嚥下は学ばずに卒業しています。術者とともに、患者さんの年齢も上がってきます。認知機能や嚥下機能の落ちてきている患者さんもおいでになります。学べば学ぶほど、歯科医師として食べることのプロになりたいという気持ちが強くなる一方、今、求められても、私にそれに答えられる実力がないことは充分承知していました。だからこそ、今回のセミナーにも参加させていただきました。参加して、患者さん役をやらせていただいたとき、自分で食べられないことが、こんなにもどかしいものなんだと、痛感しました。食べたいものが食べられない。自分のタイミングで口にに入れてもらえない。スプーンが少し歯にあたっただけでも不快です。ちょっとした、タオルの当て方で、体が安定感が

変わる、手の置き方一つで疲労感が違う。いつも自分がやっているように、スプーンを使ってあげればいだけなのに、視線でアゴの位置をコントロールしないといけないのに、その介助すらままならない。小山先生が、「緊張してるから、できないのじゃない。実力がいないからです。」とおっしゃったことが、真実だと思いました。参加後、生半可な気持ちだけでなく、きちんとアセスメントができ、少しでも、最後まで口から食べることに関わられるように実力を付けなければと尚一層思いました。

- ◆今までやってきた食事介助は、何も考えていなかったと痛感しました。特に小山先生からの「誤嚥させるような姿勢で介助している看護師」と言われた時には本当にそう思いました。本を読むだけ、見てるだけでは実際に患者さんに適切な食事介助をす事は不可能であると強く感じました。スキルアップこそが不可欠だと思いました。
- ◆セミナーに参加し、得た知識や技術は、自分だけでなくまわりのスタッフにも伝えていかなければと思いました。相手が上の立場だと言いくて私も今まで自分から発信していなかったと思います。しかし、そのためにはきちんと正しい知識・技術を身につけていく必要があると再認識しました。
- ◆スキルアップしたいと思っていたが、まだまだ理論も足りないと感じた。何より小山先生のオーラにさらに情熱が高まった。
- ◆水飲みテスト、フードテストであっても、視野に余分なものを置かない。患者のどこに問題があるのかではなく、自分達のどこに問題があるのか考えることは全く逆の発想でした。
- ◆食事介助技術を直接学び、今までいかに適当行っていたか認識しました。妥協してこれでいいかなでは、なく細部まで気配りをしていきたいと思えます。
- ◆今回アドバイザーを務めさせて頂き、よりの確に知識を深めた上で、セミナーをマネジメントする能力を養わなければならない事に気づかされました。参加者の満足度を上げる為にはどうしたら良いかをもっとしっかり考えたいと思えました。
- ◆加前は全く何もわかりませんでした。参加後は、食べている姿勢がおかしいとか不自然だとか(どこがおかしいのかが分かって判断して改善するまでは行かないのですが)何となく分かるようになったというか？分かるようになって見ようになったと思えます。参加前は経験もなく何となく怖いなあ~と思っていたのですが、怖さが少し無くなりました。
- ◆今回は姿勢調整の大切なことを痛感しました。食べられない人と決めつけていた過ちにも気が付きました。食べられないようにしてしまっていた…。とにかく姿勢調整から始めようと思えます。
- ◆禁食になる状況が多い病院であるため、そこからの改善と、食べるための口を作ることへの意識をもてるようにかかわる必要があると思えました。知識を得たことで、今まで何となく実施していたことに、根拠が加わり、スタッフへの指導を自信をもってできると思えました。
- ◆お食事の提示方法や目線の促し、お声かけなど姿勢保持の大切さなどいろいろ教えていただきましたが、自分自身の対応をもっと「丁寧に」対応していかなければならないと思えましたし、観察力の感度を上げなければならぬと気付かされました！

Q.6 セミナーで学んだことをどのように現場で活かしていきますか？

- ◆食事介助をしている介護者に知らせていきたいので、アドバイザーの方などに講師に来ていただく企画をしたい。
- ◆食事を食べるためのスプーンテクニック、ポジショニングの大切さを学んだ。病棟スタッフへ基本姿勢(ベッド、車椅子)、スプーンテクニックを伝えて行きたい。食べない背景の意味を考える。不足部分を補いながら強みを伸ばす。包括的な支援が必要であることを伝えたい。
- ◆まだまだ勉強が足りないなので、もっと色々なセミナーに参加して身に付けていきたい。
- ◆食べる場面に立ち合うことがないので、積極的にその機会を作っていく。その上で、本人以外の問題点、今回学んだポジショニングなどフィードバックできるようにしていきたい。

- ◆セミナーの翌日に直接的嚥下訓練を行う機会があったので実施しました。前より効率よくポイントを押さえて実施するようになったと思いますが、今後も継続し、後輩指導へつなげていきたいです。
- ◆実践あるのみ、練習あるのみと思い、セミナーを思い出しながら食事介助やスクリーニングに参加している。また、リハビリと合同の会議内でセミナーで学習した内容の報告を行った。
- ◆車いす座位で食事摂取する患者さんの姿勢など食べやすいかどうか観察して食べやすく工夫していきたいと思います。
- ◆他職種とも連携し、全体像をみれること、正しい食事介助をまず自分ももっと勉強し、伝えていきたいと思いました。
- ◆今いらしている患者さんが、最後まで口から食べるように、支援していくこと、地域のケアマネさんたちと連携をとり、口腔ケアの大切さを伝えていこうと思います。
- ◆自分だけが学ぶこと、知識やスキルを習得するだけでは、患者さんの食べるを支えていくことは困難であり、多くのスタッフが同じスキルを持って患者に介助していくことが重要です。自分だけではなく、このスキルを広めていけるように行動したいです。
- ◆私は在宅の分野ですので、得た知識・技術をもう一度本を読みこんで復習したうえで、他のスタッフや利用者さん自身、またその家族の方、ヘルパーさんたちに伝えていこうと思います。また、漫然と絶食状態を続けるのではなく「本当にこの方は絶食が必要なのか？」と疑問をもち、積極的に嚥下状態を評価しようと思います。ST・医師・歯科など他職種との連携を深められるようにしていきたいです。
- ◆学んだ事を実行すると共に、職場で高まっている摂食嚥下に関する取り組みのリーダー的役割が果たせるよう活かしていきたい。
- ◆車椅子でのポジショニング、ベッドでのポジショニングはさっそく実践したいと思います。
- ◆ポジショニングは、観察ポイントを押さえベストな状態で摂食できるよう、また、介助は患者さんの持てる力を伸ばすことを意識していきたいと思います。食事介助マニュアル作成中ですので、今回得た知識も盛り込みたいと思います。職場のスタッフも参加するよう働きかけていきます。
- ◆人に伝える際、現在のやり方を見た上でより良い手技を短時間に的確にアドバイスできるようにしたいと思います。その際、押し付けるのではなく寄り添う気持ちでどこまでならその方の立場で可能なのかまで考察し、指導したいと思います。
- ◆食事介助の現場に行って実際に見る必要性を感じました。また今後、食事介助に関わる出来る限り多くの人にこの実技セミナーを受けて欲しいと思いました。そのために頑張ります。
- ◆自身が実践することはもちろん、担当の老健では、介護職員と勉強会やケアプラン会議で共通理解の場をもちたい。他、担当の特養では管理栄養士とKT バランスチャートに取り組み始めたので、継続展開してゆきたい。
- ◆やはり、だれもが同じ思い・方法でできるようにスタッフへ伝達していきたい。特定な人がいないときは食事介助ができない…というような状況を作らないために。
- ◆去年から初参加させていただきましたが、私は不器用なので少しずつ自分が担当させていただいている患者様をKT バランスチャートに当てはめて適切な判断ができているかどうかを確認しながら結果をだして行きたいと思っております。

Q.7 その他、感想がございましたらご記入ください

- ◆患者体験が出来ず残念でした。今回の実技セミナーに参加する事で自分の食事支援に対する知識・技術のなさを痛感しました。今後、食事支援するための知識・技術を自己でも学び、機会がある時は実技セミナーに参加し身につけていきたいです。
- ◆KTSM の実技、KTBC への理解をもっと深めたい。また参加します。

- ◆今回、一緒に学んだ衛生士さんや、サポートしてくださったスタッフのみなさんからいろいろな情報がいただけたので実りのある研修になりました。
- ◆小山先生がおっしゃるように、1度2度セミナーに参加しただけでは、なかなか摂食嚥下の知識や技術は身につかないと思うので、定期的にスキルの維持をする必要を感じます。また、自分が出たことがないセミナーにも参加してみたいです。ただ、仕方ないとは思いますが、家庭持ち、今年から学生の身分の私には参加費が少し高いです(^_^)
- ◆2～3日の日程での研修があれば是非受けたい。
- ◆指導者により、差があると感じます。車椅子のフットレストから足を降ろしてなかったの、確認すると、足が届かないときは、そのままでも良いと言われました。その後、指導者が不在となり、わからないところを、隣の指導者に聞いたところ、とても丁寧に教えていただきました。フットレストからは必ず足を降ろす。後方に準備してあった足台もアイデアでした。その方は細かいところもいろいろ教えていただき、短い時間でしたがとても良かったです。基礎編に、もっと参加したいのですが、回数が限られていてとても残念です。もっと機会を欲しいと強く希望します。同僚も、申し込んだ時には、すでにいっぱいでした。(募集当日)難しいことかもしれませんが、どうぞよろしくお願いします！
- ◆今回、2回目の参加でしたが、セミナーに定期的に参加させていただき、モチベーションアップしました。小山先生にお会いできて幸せな気持ちになりました。スタッフの皆さん、ありがとうございました。また、参加させていただきます。
- ◆アドバイザーも進化しなければならず、常に考えて行動できるよう、手技とマネジメント能力を磨いていきたいと思えます。貴重な機会を頂けたことに感謝しています。どうも有難うございました。m(_ _)m
- ◆初めて実技セミナーに参加させていただきました。帰って来てから口に運ぶスプーンの角度をじろじろ見たりしています。練習あるのみですね。普段食事介助に関わることがないので医師が参加してもどうなのかなあ～？と思っていたのですが、小山さんの仰る通り、指示を出す医師が理解できていないとダメですね。努力します。
- ◆グループごとに指導者が実技指導下さり、有意義なセミナーでした。自身が患者体験してみることで気付くことが多くありました。充実のセミナーをありがとうございました。
- ◆小山先生、山下先生、あと理学療法士の男性の先生ありがとうございました。チャートや手技も含めて最近知った段階で、まだ使えるレベルには至っておりませんのでこれから継続的に参加したいと思っております。これからもご指導のほどよろしくお願い致します。



セミナー風景





1グループ



2グループ



3グループ



4グループ



5グループ



6グループ



口から食べる幸せの輪を広げましょう

みなさま ありがとうございました

